# 【世界史探究】

## ～ClassPad.net のファイルふせん・手描き機能を活用する～

ウィーン会議による国家・領土の変遷を理解する授業を理解する授業

主要国それぞれの思惑を踏まえながら，獲得領土を確認する。

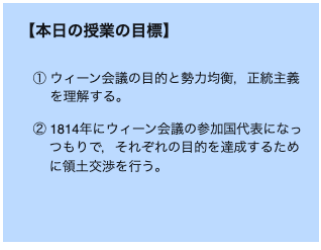
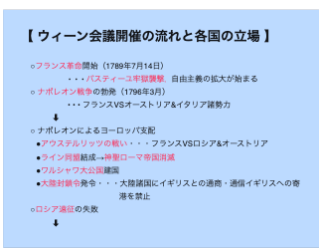
【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：ウィーン会議前後の複雑な国家・領土変遷を議論の体験を通して記憶に定着させ，その後の歴史地図の土台を作り上げる。

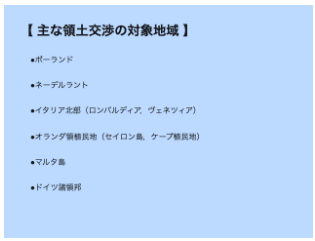
生徒向けの目標：ウィーン会議でそれぞれの主要国がどのような目的を持って動いていたかを理解し，論理的にウィーン条約の内容を説明できるようになる。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- **授業準備の時短・効率化**：事前にデジタルノートへ地図・役割分担カードを入れておくことで，配布時間が促進される。
- **生徒の理解促進**：人物の肖像画をまとめてみることが可能となり，映像記憶としても定着が促進される。
- **プリント削減**：役割分担や地図をデジタルノートやふせんで送信することで物量が削減できる。

| | | 授業の流れ | ClassPad.net での操作 |
|---|---|---|---|
| step1 |  | **概要の説明**<br>ナポレオン戦争後のヨーロッパ再編をめぐり、列強が勢力均衡と正統主義を掲げて交渉したのがウィーン会議であることを示し、本時では代表になりきり領土交渉を行うと説明する。 | |
| step2 |  | **基礎的な事項の確認**<br>会議の主要参加国、メッテルニヒ・タレーランらの人物、正統主義・補償・勢力均衡の三原則を確認し、各国の立場が対立していた構造を理解させる。 | リンクふせんやファイルふせん、教科書や資料集などを活用し、代表的な参加者や，国名，国旗などを画像で生徒に提示する。<br>また、EX-word ふせんを使用して、用語の解説もあわせて行う。<br>※Ex-word 機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。 |

step3

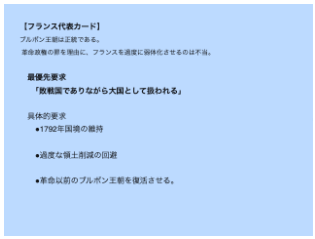



## 地図・役割の共有

1814 年時点のヨーロッパ地図を用い、ポーランド・ネーデルラント・イタリア北部・オランダ領植民地などが交渉対象となる地域であることを位置関係とともに把握させる。

地図と役割は事前にファイルふせんやテキストふせんにしておき、授業支援機能を利用して生徒に送信する。この際必ず会議前の地図を送る。

step4

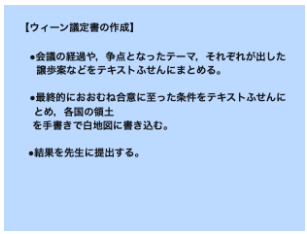



## グループワーク①

複数のグループを作らせ、教師は各グループの構成員それぞれに担当国家を提示する。まずはグループ員各自の最優先要求を提示し，利害の衝突する論点や，妥協の可能性をまとめさせる。

各国の最優先目標が書かれたテキストふせんを電子黒板やプロジェクター等で投影し、全体に提示する。生徒には、手描き機能を利用して、step3 で共有されたファイルふせんに，議論の対象になりそうな地域に印をつけさせる。

step5

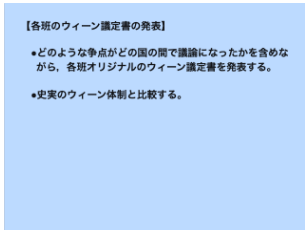



## グループワーク②

step4 でまとめた論点や妥協の可能性をもとに，正統主義や勢力均衡を意識しながら譲歩案を交換し，それぞれの領土を確定する。

グループの議論の結果を，地図に手書き機能でファイルふせんに書き込み，グループの代表者に授業支援機能で送信させ、同時編集機能でグループ員全員に確認し合わせる。
グループ内おおむね合意に至った領土交渉の結果を教員に課題として提出してもらう。

step6

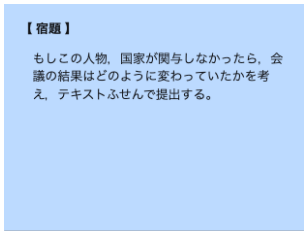



## 内容共有・答え合わせ

各班の確定した領土を発表させ，史実のウィーン体制と比較して評価する。なぜその結果になったのかを振り返り，会議の歴史的意義を整理する。

課題の提出状況一覧画面を電子黒板やプロジェクター等で投影しながら解説しつつ、特徴的な点や、具体的にその領土変遷によってどの国にどんな利害がもたらされるか、クラス全体で講評を行う。

step7

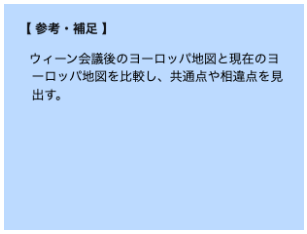



## まとめ・宿題

授業内で取り上げた領土変遷のうち、特に入試で出題頻度の高い重要な地域や、新たに出現した国名など、簡単な振り返りを行う。
最後に「もしこの人物がいなかったら，会議の結果はどのように変わっていたか」をテキストふせんで提出させ，クラスに共有する。

宿題は、内容が記載されたフォーマットを Word 等を利用して作成しておき、ファイルふせんにして、授業支援機能を用いて生徒に送信する。

step8




## 参考・補足

ウィーン会議後のヨーロッパ地図と現在のヨーロッパ地図を比較し、共通点や相違点を見出す。会議の様子を描いた絵画を生徒たちに提示する。

ウィーン会議後と現在のヨーロッパ地図二つをファイルふせんで送信し，タブ切り替えで見比べさせる。手書き機能で共通点や相違点を間違い探しの感覚で印をつけさせる。